

都市と交通最終レポート

ほんまに本間 C1250579 大信田陸久

A)他チームの発表を聞いて参考になった点

他のチームの発表を聞き、自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのは「レインボーロードを活用した事故防止策」を提案した2班と、「地方独自の仮想通貨を導入する案」を提案した14班である。

2班は道路上の特に注意が必要な場所に光や音を用いたレインボーロードを導入することで、事故の危険性を直感的に伝える点を重視していた。地方都市では街灯が少なく、夕方から夜間にかけて視認性が低下する道路が多い。そのような環境において、従来の標識や注意看板だけでは十分な注意喚起が行えない場合がある。この班は、光るラインや警告音によって歩行者だけでなく自動車運転者にも危険を認識させる仕組みを提示しており、事故を未然に防止するための提案であると感じた。また、時間帯によって光量や音量を調整することで周りへの配慮や高齢者、障がい者にもわかりやすいユニバーサルデザインであり、安全対策として効果的だと思った。この感覚に訴える安全対策という視点が自分たちのチームには無かった考えであった。レインボーロードというネーミングにも聞き手に強いインパクトを持たせるものであり、大きな示唆を得た。

14班は交通問題を単なる移動手段の問題として捉えるのではなく、地域経済や住民の行動と結びつけて考えていた点が印象的であった。この班は、公共交通機関の利用や地域活動への参加に対して仮想通貨を付与することで、住民の行動を促進しようとしており、交通政策を実効性のあるものにする工夫が見られた。バスを利用することで利用者に仮想通貨が付与され利用者は受け取った仮想通貨を商店街で利用するというサイクルが生まれると感じた。地方では公共交通の利便性が十分でないことから自家用車に依存しやすく、公共交通を整備しても利用が伸びにくい問題がある。そのような状況において、仮想通貨を用いて行動変容を促す発想は、効果的であると感じた。また、この案は交通分野にとどまらず、地域経済の活性化や住民同士の関わりを強める可能性も持っている点が特徴的でありとても参考になった。

B)地方都市における交通問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは、中高生の自転車事故が多い原因として、都市構造や生活様式に起因する複数の要因が存在すると考える。①自転車走行中のながら運転、②ヘルメットの着用率の低さ、③自転車専用レーンなどのインフラ整備不足、④中高生の交通安全意識の不足の四点を考えた。他チームの発表を踏まえ⑤危険を直感的に伝える仕組みの不足、⑥安全行動を継続させる動機付けの欠如という新たな視点を加える必要があると感じた。

これらを整理すると、課題は「事故が起りやすい道路環境を改善するためには」「中高生自身が危険を実感できるようにするためには」「安全な行動を一時的なものではなく継続させるためには」「地域全体で中高生を見守る体制を構築するためには」「交通政策を実効性の

あるものにするためには」という五つにまとめられる。これらの課題を踏まえると、単に事故が起きた後に対処するのではなく、事故が起りにくい環境を整え、中高生が事前と安全な行動を選択できる交通環境を構築することが重要である。授業を通して、交通問題は一つの対策だけで解決できるものではなく、都市構造、利用者の意識、制度設計などが相互に関係していることを学んだ。そのため、部分的な対策にとどまらず、複数の視点を組み合わせて考えることが必要であると感じた。そこで、ビジョンとして「中高生が意識せずとも安全な行動をとることができる交通環境の実現」を考えた。このビジョンを実現するためには、ハード面とソフト面の両方からのアプローチが必要である。ハード面では、自転車に通行できる空間の確保が重要であり、自転車専用レーンの整備だけでなく、交差点の構造の見直しや街灯の増設を考えた。これにより、自転車と自動車の接触機会を減らし、事故の発生そのものを抑制する効果が期待できる。一方、ソフト面では、人の行動や意識に働きかける施策が重要となる。交通安全は個人の注意力だけに依存させるものではなく、社会全体で支える仕組みを構築することが不可欠であると理解した。具体的には、学校における交通安全教育の充実や、ヘルメット着用を促す取り組みが挙げられる。また、安全な行動を評価し、継続を促す制度を導入することで、交通安全が一時的な安全意識向上にとどまらず、日常的な習慣として定着する可能性が高まる。さらに、学校・家庭・地域が連携し、事故多発地の情報共有や見守り活動を行うことで、中高生を地域全体で支える体制を構築できると考える。

これらの施策を総合的に実施することで、中高生の自転車事故の減少だけでなく、地域全体の交通安全意識の向上にもつながると考えられる。しかし、道路整備には費用や時間がかかること、制度運用には継続的管理が必要であることなどの課題も存在する。そのため、実現性を考慮しながら段階的に施策を導入し、結果を検証しつつ改善していく姿勢が重要である。授業を通して、理想的な交通施策を描くだけでなく、限られた予算や人員の中でどのように実行するかを考える視点の重要性を学んだ。本レポートで示した提案も、そのような現実的規制を踏まえつつ、改善を重ねていくことが求められると考える。